

関学同窓会神戸支部総会・懇親会挨拶

2013 年 7 月 6 日

本日は関学同窓会神戸支部総会・懇親会に多数の方々のご参加を賜り厚くお礼申し上げます。

また、学院より井上学長始め学院関係者の皆様のご出席をいただいております。また同窓会本部より大橋会長始め副会長の皆様、そして近隣支部より各支部長や幹部の方々のご出席をいただいております。改めましてお礼申し上げます。どうか神戸支部の風をお楽しみください。

さて、昨年末に政権が交代して半年になります。それまで前に進まず、横ばり見て何も決められなかった閉塞感から開放され、世の中は一気に明るく元気になりました。皆さんの顔色も一年前と比べると随分明るく元気に見えますが、いかがでしょうか。

月日の経つのは早いもので、関学創立 125 周年も後一年少しとなりました。記念事業や行事は順調に進んでいるようですが、先立つものが中々厳しいようで、このあと大橋会長より熱いお話があるものと思われまますので私のほうからは特に申し上げません。

来年関学は 125 周年を迎えますが、神戸支部は今年で 105 周年になります。関学発祥の地である「原田の森」があり、卒業生は 2 万人を越える支部です。歴史と伝統のある支部として 125 周年記念への相応の協力を考えております。会員の方々は既に個人的に寄付をして頂いておりますが、神戸支部としても相応のことを考え、皆さまにお買い上げ頂いた会員券の一部を 3 年分積立て、まとまった金額として学院に寄付をしたいと思っております。この点について改めて皆様方にご了承いただきご協力をお願い申し上げる次第であります。

さて 105 周年を迎える神戸支部であります。支部の原点は関学発祥の地である「原田の森」であります。関学の創立者であるランバス先生との関係も強いものがあります。

ここで関学の創立者である「ランバス博士」と「原田の森」について触れたいと思っております。

ウォルター・ラッセル・ランバス博士は 1854 年上海に生まれました。

この年は日本では嘉永 7 年で、ペリー提督が 7 隻の軍艦を率いて伊豆下田沖に入ってきた年です。

大河ドラマ「八重の桜」では今、白虎隊の場面ですがこの 14 年後になります。

ここから日本の開国が始まりました。

中国での宣教活動や病院建設などをしたのち、32歳で日本に来ました。1886年、明治19年です。しかし日本での滞在は僅か4年でした。この間に瀬戸内各地や九州に13の教会を建設し、1889年、明治22年に関学を創りました。

世界に開かれた貿易港である神戸を見て、「輝く未来を創造する世界市民」を教育方針に定め、王子公園の上の「原田の森」をキャンパスに決めました。そして旧居留地47番地に住まいをもちました。神戸大丸の東向かいの「ニッケ」の場所です。また、神戸栄光教会の初代牧師に就任しました。またランバス先生の父親は再度山の外国人墓地に今も眠っています。

1890年に日本を離れ南米やアフリカなどで宣教活動をされましたが、1921年、大正10年に横浜での講演の後、亡くなりました。66歳でした。この年は神戸開港50周年記念の年でした。

「原田の森」キャンパスは1929年、昭和4年に上ヶ原キャンパスに移転するまで40年間続きました。そして上ヶ原キャンパスは来年で85年になります。

このように神戸支部は「ランバス先生」と「原田の森」という二つの大きな宝をもっています。先般富士山が世界文化遺産に登録されましたが、神戸支部も関学文化遺産に登録していただければと思います。

いずれにしても神戸支部は全関学の原点であり、世界市民への出発点であることを誇りとし、将来へ飛躍する子供たちのことを考え、改めて学院のことを見つめて頂きたいと思います。

そしてKGブランドの向上と発展を一人一人の方をお願いしたいと思います。具体的には、関学で学んだ喜びと、卒業生である誇りをもち、いつも学院を思い、機会あるごとに積極的にKGを発信してください。

来年の125周年の記念事業と行事を必ず成功させ、KGの光を世の中に広げよ

うではありませんか！

今宵は久しぶりに会う同窓や同期、先輩や後輩の人々と歓談頂き、楽しい一刻をお楽しみ下さる事をお願いし、私の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございました。